

教育実習を通して、現在の教育現場を実際に体感し、生徒との関わり方の難しさと簡潔に分かりやすく伝える難しさを感じた。現在の生徒たちは非常に元気ではあるが、一部の男子生徒を除きあまり活動的でない生徒が多く見受けられた。保健体育の教師として、一緒に体を動かしてコミュニケーションをとろうと考えていたがうまくいかなかった。そのため休み時間や昼食の時間に積極的に話すことを意識した。担当クラスの生徒の頑張っている姿を見つけるために、なるべく授業見学や部活動見学に行くことを意識した。頑張っている姿を見つけそれについて話すことで、生徒は自分のことを見てくれていると感じ、次第に心を許してくれるようになった。3週間と限られた時間の中で生徒と深いコミュニケーションをとるために、授業外の時間を大切に、生徒と少しでも関わる時間を増やすことを意識して行動した。

授業実践、指導案作成をする上で工夫した点は、指示を分かりやすく簡潔にし、活動時間を長くすることだ。実習最後まで分かりやすく簡潔にまとめることは困難だったが、少しずつ改善できたと思う。要点をホワイトボードにまとめ視覚から情報を与えることで、生徒が見ただけで分かるようにする工夫を実践した。さらに保健の授業ではパワーポイントとプリントを用い、分かりやすい授業を目指して授業を行った。指導案作成時は生徒の実態をよく観察し、そのクラスに合った授業をできるようにした。授業を進める上での大きな軸は全クラス共通だが、細かい点はクラスの生徒の身体能力や雰囲気によって柔軟に変化させるようにした。クラスによって個性や身体能力が全く異なり、自分の考え通りに授業を進めることができたことは少なく、考えもしないハプニングやアクシデントが多くあった。こうしたことを少しでも減らすために、多くの準備をして授業に挑まなければならないと感じた。安全面もこれと同じように、事故が起きてからだ遅いため、生徒が安全に授業できるように環境の整備や、生徒たちの集中力を保つ工夫を考え実践した。

3週間お世話になった指導教諭には多くのことを学ばせていただいた。生徒との関わり方から授業実践まで、幅広く指導していただいた。指導教諭を含め、周りの多くの先生方を近い距離で見えてきて、教育現場の難しさと厳しさをより具体的に感じることができた。授業はもちろんだが、それ以外の生徒指導や保護者との関わりまでであるため、常に忙しそうに動いていた。こうした中で、教育現場には教員同士の連携とコミュニケーションの重要性を感じた。この3週間で教育現場の厳しさとやりがいを強く感じた。私は、指導教諭や担当クラスの生徒に恵まれ充実した実習になった。この経験を胸に、これからの人生に活かしていきたいと思う。